

令和5年度愛知県歯科技工士会学術大会

「デジタル審美修復の実際」

伊藤 竜馬

前歯部などの審美領域において、従来はほぼアナログ技工と工程が変わらないフルレイヤリング法がメインであったが、IOS やミリングマシンの発展、複合組成積層型ジルコニアの登場により、フェイシャルカットバックレイヤリング法やモノリシックジルコニアへのステイニング法などのデジタルをより活用した製法が可能となった。

それらを応用することで可能となるフルデジタル技工・モデルレス技工による審美症例の製作工程と注意点について、またアナログ技工技術のデジタルへの活かし方について解説する。

「プレスセラミックスの製作と応用」

間中 道郎

昨今、CAD/CAM、酸化ジルコニウムの普及が広まり、メタルフリーのモノリシック修復が一般的となってきた。しかしながら、さらなる低侵襲修復(MI)を求める場合、二ケイ酸リチウムを用いたプレスセラミック修復もまた強力な治療オプションとなる。

今回は、プレスセラミック(二ケイ酸リチウム)の特徴と、実際の臨床における応用について解説したい。